

茨城県感染症情報センター 令和7年6月13日時点

百日咳とは？

百日咳は、百日咳菌（*Bordetella pertussis*）によって引き起こされる急性呼吸器感染症で、**5類感染症の全数把握対象疾患**です。

百日咳の臨床的特徴を有する者を診察した場合は、原則全例検査診断を実施（検査確定例と接触歴のある百日咳の臨床的特徴を有する症例は除く）し、届出基準を満たす場合は診断から7日以内に最寄りの保健所へ届出をお願いします。

【参考】

感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-23.html>

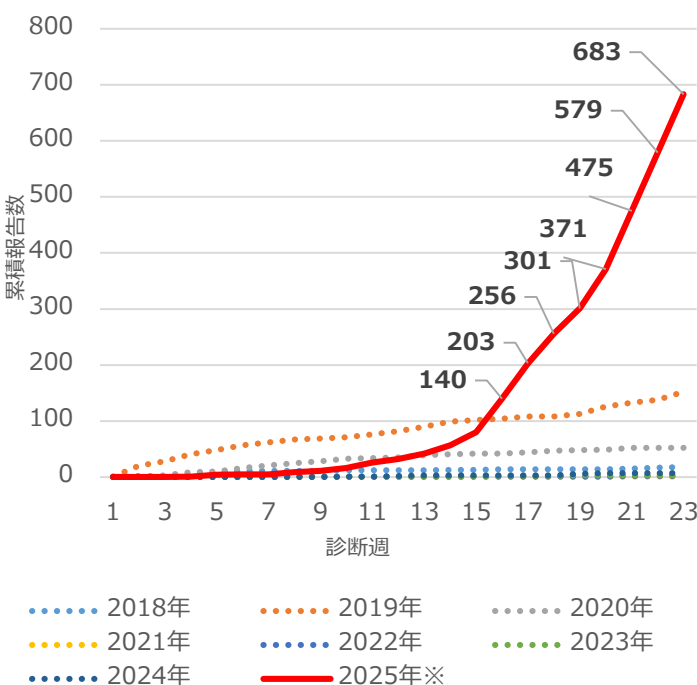
感染症法に基づく医師届出ガイドライン 第三版（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/13224-pertussis-guideline-211229.html>

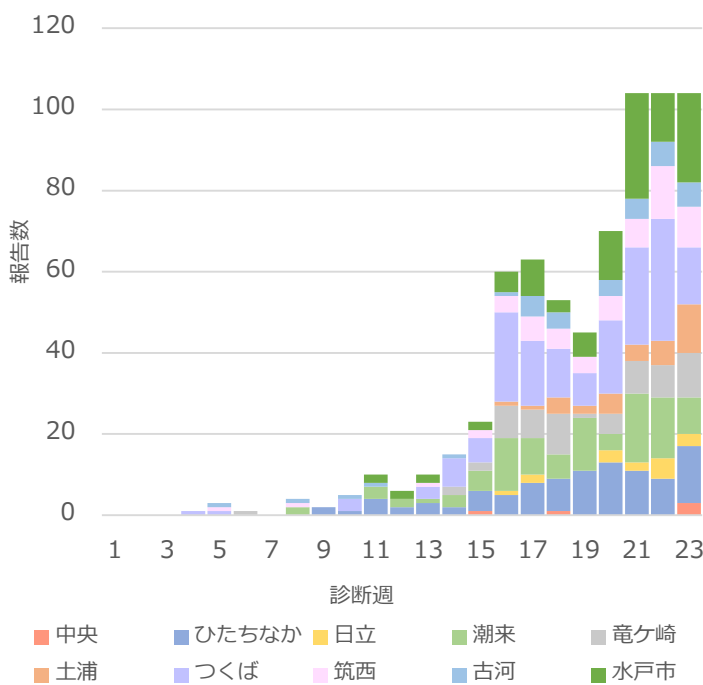
百日咳の発生状況は？

- 茨城県における2025年第23週時点の百日咳報告数は**683例**と、2018年の全数把握開始以降、**過去最多の報告数**となっています
- 保健所別では、つくば保健所が165例（24%）、水戸市保健所103例（15%）潮来保健所102例（15%）、ひたちなか保健所98例（14%）の順に多くなっています

百日咳累積報告数
(2018年～2025年第23週時点※)



保健所別 百日咳報告数
(2025年第1週～第23週)

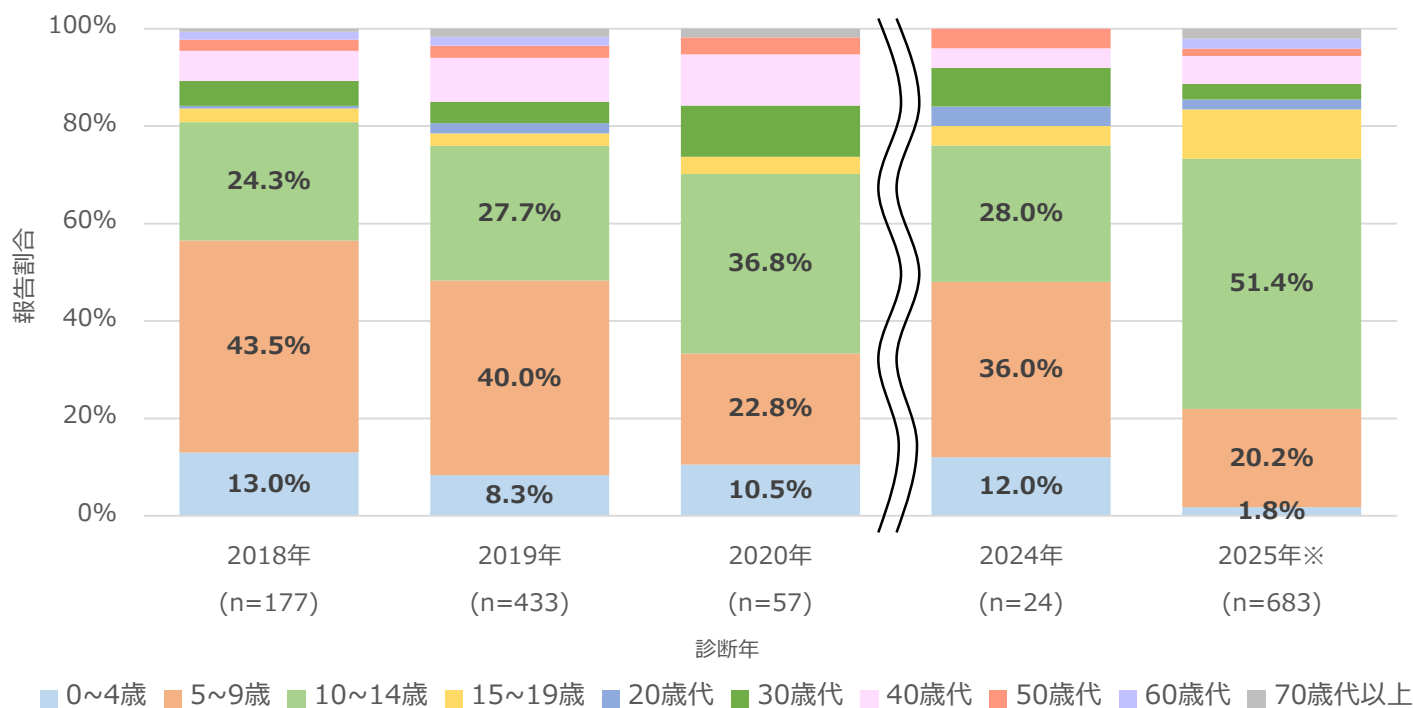


2025年に茨城県内で報告のあった百日咳症例の特徴は？

- 性別は、男性352例（52%）、女性331例（48%）と性差はなかった
- 年代は、**10歳代以下が全体の約80%**を占めており、5歳刻みでみると10～14歳の割合が51.4%と2018年の全数把握開始以降最も高かった
- 重症化リスクが高いとされる6か月未満児の報告割合は、例年0～9%で推移しており、2018年の全数把握開始以降、死亡例が1例確認されています
- ワクチン接種歴別（接種歴不明を除く）では、いずれの年も**4回接種の割合が最も高く**、2025年第23週までに報告のあった症例の93%は4回接種済、4%は3回接種済、2%は1回接種済、1%は未接種でした

年代別 百日咳報告割合（2018年～2020年、2024年～2025年第23週時点※）

（報告数が年間10例未満であった2021年～2023年は除く）



マクロライド耐性百日咳菌とは？

- 百日咳の治療には、マクロライド系抗菌薬を第一選択薬として用いることが推奨されていますが、近年、**マクロライド耐性百日咳菌(macrolide-resistant *Bordetella pertussis* : MRBP)**の出現が問題視されています
- 2018年には、大阪府から国内初となる報告があり、その後東京都や神戸市から単発例の報告、2024年には鳥取県からMRBP流行の報告がありました
(国立感染症研究所 病原微生物検出情報IASR <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)
- **2024年以降、茨城県内においても行政検査にて、マクロライド耐性百日咳菌(MRBP) 感染症例（2024年：1例、2025年：3例）が確認されています**

